

鳴海ヶ丘新聞

第3号

2018年3月



劇あそび発表会 二月二十三日(金)

おおぶ文化交流の杜 alobu こもれびホールにて
劇あそび発表会が開催されました。

二期期から、先生が作った紙芝居を何度も読み聞かせてもらい、登場人物の気持ちを
みんなで話し合いながら考え、身ぶりのあそびを積み重ねていくうちに、どのクラスの子どもたちも自分のクラスの物語が大好きになりました。

役になりきって演じる子どもたちの舞台は、見ている誰もが心を動かされるものですが、舞台袖もまた、ドキドキしながらも自分の順番を心待ちにしている表情や、互いに励まし合い、助け合う様子が見られ、舞台上の発表とはまた違った心温まるドラマが繰り広げられていました。クラス一人一人の心が一つになった、一年間の教育の集大成にふさわしい劇あそび発表会となりました。



文化芸術プログラム⑥ 二月二十八日(水)

「紙あそび」昔のあそびを体験しよう

白いおひげがトレードマークの折り紙仙人こと長江秀鶴先生は、手元を見ないで様々な折り紙作品を折って見せてくださいました。「わくすこい」「それ、わたしも折ったことあるよ」「ほくも折ってみたい」と子どもたちは、秀鶴先生の手元に釘付けでした。

みんなで大きな模造紙を代わる代わる折る時、黄組さんは青組さんや赤組さんの折る手元を集中して見ていたり、黄組さんが折る時は、お兄さんお姉さんたちが、そっと手を添えて助けてあげ、優しく声をかけてあげる等、とても温かい時間が流れていました。また、折り紙が次第に形になっていく過程が面白いらしく、

「ほんとにクマになるよ」「ここがたぶん耳になるよ」と出来上がりの形を想像している表情が、とても楽しそうでした。日本を代表する文化「折り紙」をこれからも日々の生活の中で楽しんでほしいと思います。

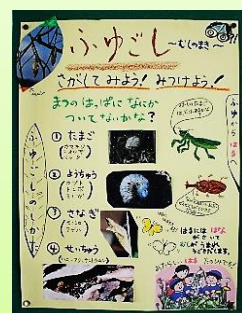


◇長江秀鶴
折り紙クラフト作家
代表作品『連鶴』
第66回瀬戸市美術展工芸
美術部門に連続入選
自由な発想で作品を数々発表



冬越しひつじ

二月末の観察台では、松葉に産み付けられたカマキリの卵が紹介されました。(園長先生が発見しました) 寒い冬を生き物たちはどうやって過ごし春を待ちわびているのか、お話をさせていただきます。



「おおきくなったよ」

この時期になると、家の近くでおもしろい鳴き声がきこえます。「ホーケツ」「ケッキョー」「ホーホー」…。ウグイスの子どもが、一生懸命鳴き声の練習をしているのです。

手元におもいでちよう(修了文集)が届きました。毎年「おおきくなったよ」という題で、年長組の子どもたちの絵日記が一冊につづられます。「コックさんになって、おいしい料理を楽しんでもらいたい」「おいしゃさんになって、かぜを治してあげたい」「ピアノの先生になって、ピアノを上手に弾きたい。」など、未来のたくさんの夢や希望が絵と文字であふれていました。

好きなこと、やりたいことをみつめましょう。そして、一度決めた目標や夢を諦めず、世のため、人のためになる大人になりましょう。そのためにも、もちろん努力が必要です。新しい春に美しい鳴き声が響きます。「ホーホケキョー!」ウグイスの様に幾度か練習して、毎年の春を積み重ねて、多くの人に感動してもらえる大人になりましょう。

園長 岡田 勝彦